

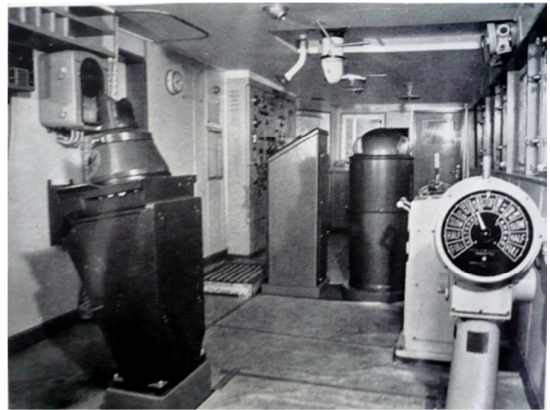
昭和42年 WHEEL HOUSE, CONTROL ROOM

1. 「CHAIN CAPTAIN」 1)～4)は「船の科学」1968-1 (Vol.21, No.1)より採取
- ・FREEDOM 型貨物船 第1船 CHAIN CAPTAIN DWT 13,071 Lt
第2次世界大戦中にアメリカで大量に建造された戦時標準船 LIBERTY 船の代替の需要を見越して計画されたもので、この時点で40隻程の受注が見込まれていたとのこと。
 - ・船主 : FREEDOM MARITIME CORPORATION (ギリシャ船主)
 - ・建造 : 石川島播磨重工業 (株) 東京第2工場 昭和42年9月 竣工
- ・1)は本船全景、大量建造された船である。2)は操舵室、輸出船と云うことで、航海計器類はヨーロッパ・メーカのものが採用された。3)は機関制御室で、Control Desk が見える。4)は無線室で、メーカは SAIT である。

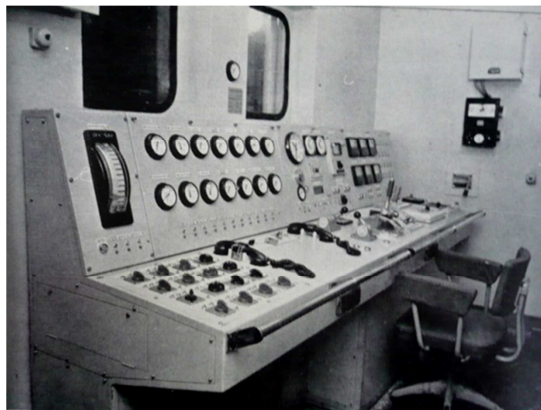
1) W42-01 CHAIN CAPTAIN 全景



2) W42-02 CHAIN CAPTAIN 操舵室



3) W42-03 CHAIN CAPTAIN 機関制御室



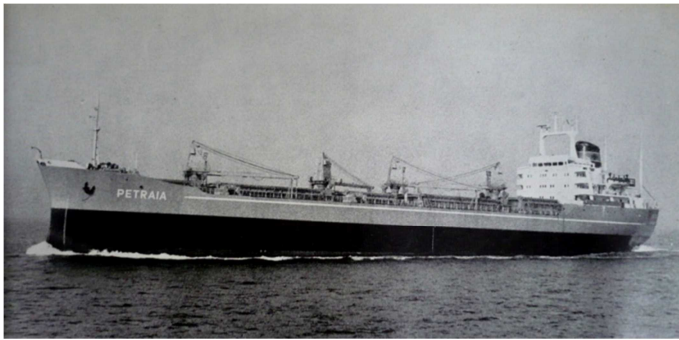
4) W42-04 CHAIN CAPTAIN 無線室



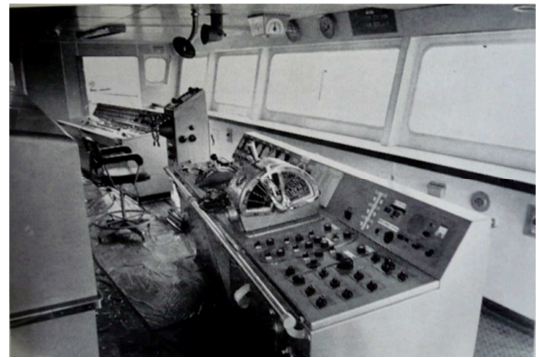
2. 「PETRAIA」 5)～8)は「船の科学」1968-1 (Vol.21, No.1)より採取。

- ・Bulk Carrier PETRAIA (第1船/2隻) DWT 16,373 kt
 - ・船主 : UNION NAVALE (France) ・建造 : 佐野安船渠 (株) 昭和42年11月18日 竣工
- ・5)は本船全景、6)は操舵室、右手前は Control Stand、中央は操舵スタンド、奥は各種警報表示灯、運転表示灯など、7)は Chart Space で Chart Table, Radar 指示器 (2台)、監視用テレビ表示器などが並んでいる。
- ・8)は Engine Control Room.

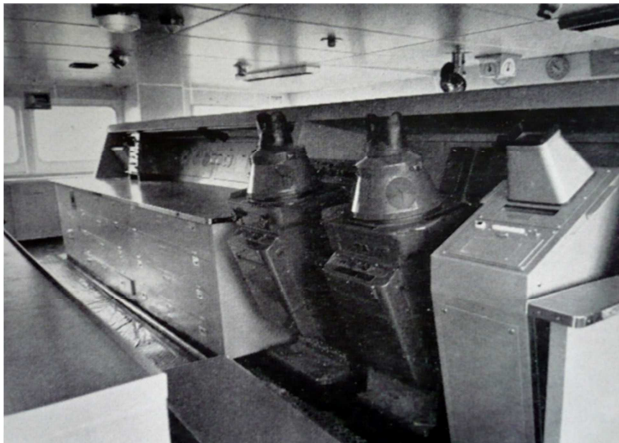
5) W42-05 PETRAIA 全景



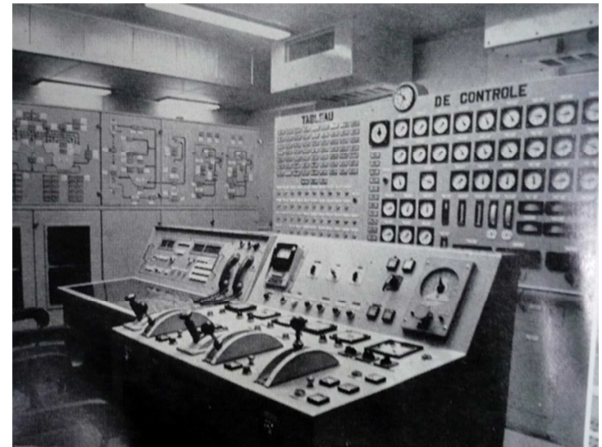
6) W42-06 PETRAIA 操舵室



7) W42-07 PETRAIA W/H Chart Space



8) W42-08 PETRAIA Control Room



3. 「開洋丸」 9)～14) は「船の科学」1968-2 (Vol.21, No.2) より採取。

- ・水産庁漁業調査船 開洋丸 総トン数 3,210.28 T 電気推進方式が採用されている。
- ・船主 : 水産庁 ・建造 : (株) 金指造船所 昭和42年9月10日 竣工

9) W42-09 開洋丸 全景

- ・9) は本船全景。

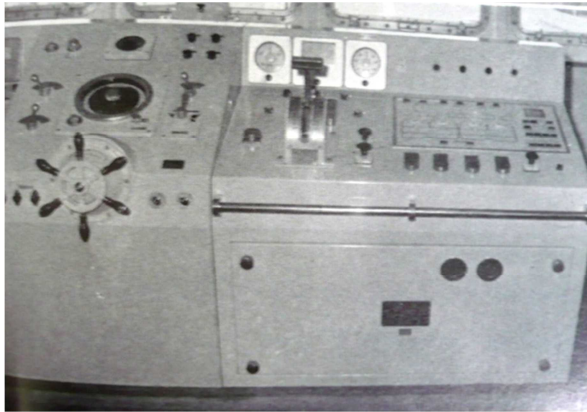


10) W42-10 開洋丸 操舵室

- ・10) は操舵室、船橋制御卓、レーダ指示機2台が見える。自動全方向魚群探知機(ソナー)も備えている(写真奥)。
- 11) は制御卓の外観で、12) は海図室である。
- ・13) は中央管制室で、右手前は中央制御盤、その奥は給電盤、中央奥は補機盤、左側は制御配電盤である。
- ・14) は無線室、調査船なので無線装置は充実している。三重通信可能とのことで、送信機5台、受信機7台 (DSB,SSB を含む) を装備している。



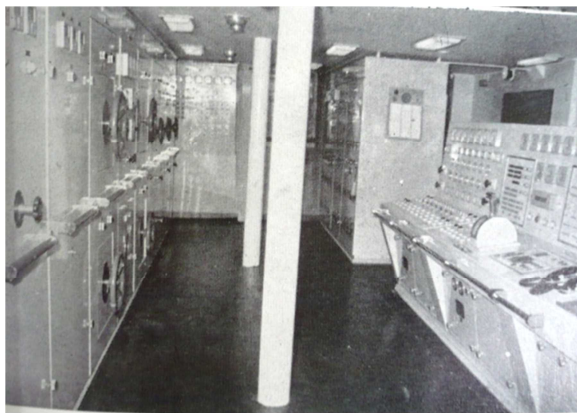
11) W42-11 開洋丸 船橋制御卓



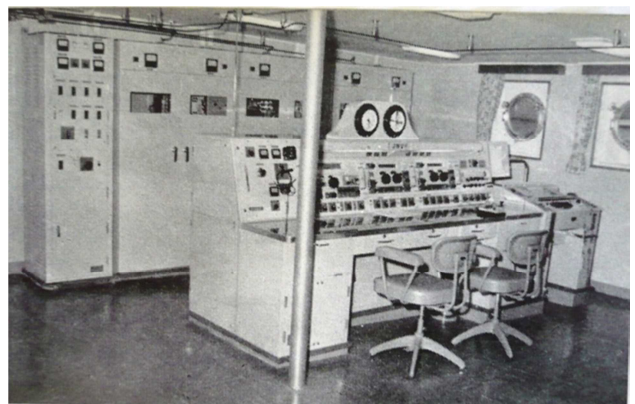
12) W42-12 開洋丸 海図室



13) W42-13 開洋丸 中央管制室



14) W42-14 開洋丸 無線室



4. 「SAN JUAN EXPORTER」 15)～19)は「船の科学」1968-4 (Vol.21, No.4) より採取。

- ・当時、世界最大の鉄鉱石専用船 SAN JUAN EXPORTER DWT 106,066 Lt
- ・船主 : サンファン・キャリアーズ社 (アメリカ マルコナグループ)
- ・建造 : 日本鋼管 (株) 鶴見造船所 昭和42年11月27日 竣工

- ・15) は本船全景、16) は操舵室、レーダは デッカ製2台、航海用テレビ(監視用) 1台あり。
- ・17) は Chart Room で Wheel House 側を見たところ、18) は Radio Office でコンパクトにまとまっている。 19) は Engine Control Room で、主機、発電機の遠隔操作監視、主要補機の遠隔発停、グラフィック・パネルにより燃料系統の集中監視など行っている。

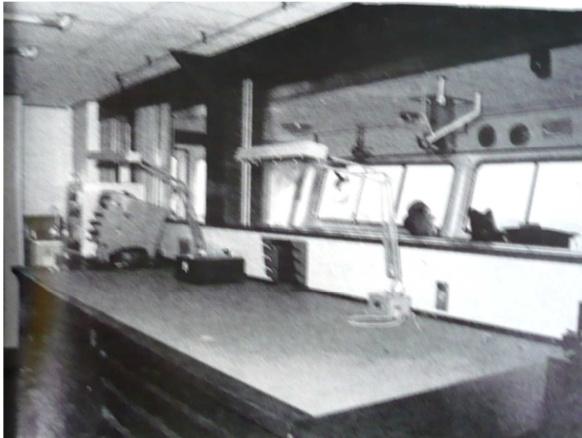
15) W42-15 SAN JUAN EXPORTER 全景



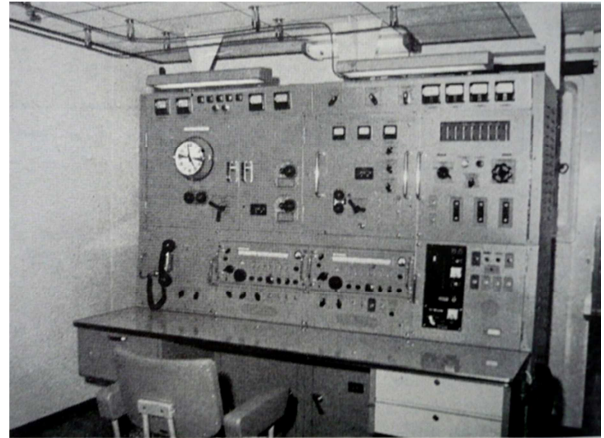
16) W42-16 SAN JUAN EXPORTER 操舵室



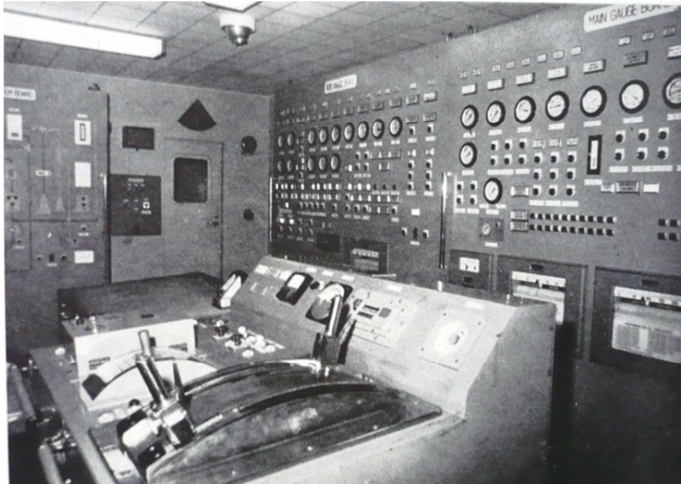
17) W42-17 SAN JUAN EXPORTER
CHART ROOM



18) W42-18 SAN JUAN EXPORTER
RADIO OFFICE



19) W42-19 SAN JUAN EXPORTER
ENGINE CONTROL ROOM



[メモ]

- 1) 第2次世界大戦中にアメリカで大量に建造された戦時標準船 (Liberty 船) の代替船の需要を見込んで、IHIにてFREEDOM型貨物船が計画され、大量建造が始まった。
ヨーロッパ船主(ギリシャなど)に狙いをつけたのか、航海計器類、無線機などはヨーロッパ製が多く見られる。
- 2) 鉄鋼石専用船の大型化が始まった(10万トンクラス、当時世界最大)。
- 3) 漁業調査船は珍しいので、取り上げた(開洋丸)。